

休日・夜間の小児救急体制を 考える

—草加市小児・救急医療問題懇話会から—

厚生労働省の調査によると平成19年10月時点で人口10万人当たりの病院勤務医師数が埼玉県は99.5人と全国最少でした(全国平均は143.9人)。医師不足は特に小児科や産婦人科、救急医療が顕著で、それに伴う過酷な労働環境も問題となっています。一方で、休日・夜間の小児救急体制の整備も課題となっています。市では医療環境の向上を目指し、これからの小児救急のあり方を検討しようと「草加市小児・救急医療問題懇話会」(座長 佐藤達也草加八潮医師会副会長)を組織しました。懇話会では、小児一次救急に特化した新たな夜間急患診療所の設置を目指すなど様々な意見が交わされました。



市立病院の時間外診療 医師に大きな負担

佐藤(座長) 平成19年度において、草加市立病院小児科に時間外診療で来院した患者数は7747人。これに対して、市立病院小児科の常勤医師は5人(20年度は6人)。当直時間帯に医師1人で1日20〜30人の患者さんの診療をしており、大きな負担がかかっているのではないだろうか。この状況を改善していくことや現在利用者の少ない保健センター内の夜間急患診療所のあり方をこの懇話会で検討していただければと思います。

熊谷 私は小児科医として氷川町で開業しています。例えば、自分のところでは対応できない二次救急の患者さんが来たときには、市立病院に

連絡をとったうえで「すぐに行くように」と指示しています。ところが患者さんによってはすぐに行かず、夜間になってから、まさに「コンビニ感覚」で診療を受けに行く人もいます。そうすると市立病院の医師の負担はますます増えるわけで、こういった人への啓発をどうするかは大きな課題だと思っています。

桂 確かに親が働いているから「診療時間内では無理」という理由もわからないでもないですが、医師も生身の人間です。やはり病院にかかる側への啓発は必要だと思います。

城石(副座長) 私も子どもの親として、こういった気持ちもわかりますが、このままでは市立病院の診療体制が崩壊してしまいます。この懇話会でもより良い小児救急体制のあり方について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

芳澤 啓発活動とともに、市域を越えた当番医制など、医師が辞めない体制づくりを検討してはどうでしょうか。

高元 親の意識として、設備が整っていないから夜間急患診療所に行か

ないということもあると思います。また、検査機器が充実していない問題があります。夜間急患診療所の1日平均患者数が2〜3人に対し、市立病院は約30人。市立病院の医師が疲れきってしまうので、何とか助けたいです。

高元 親の意識として、設備が整っていないから夜間急患診療所に行かないというところもあると思います。また、検査機器が充実していない問題があります。夜間急患診療所の1日平均患者数が2〜3人に対し、市立病院は約30人。市立病院の医師が疲れきってしまうので、何とか助けたいです。

夜間急患診療所の小児患者は 1日2〜3人

福田 市立病院の大変さはよくわかりましたが、保健センター内の夜間急患診療所についてはどうなっているのですか？

佐藤 医師会加入の内科、外科、小児科の医師が持ち回りで日曜、祭日を含めて対応しています。平成19年度に夜間急患診療所を利用した小児患者数は973人でした。

福田 利用する側としても現在の夜間急患診療所は場所がわかりにくいので、新たな施設をつくり、救急対

充実した 一次救急施設の必要性

佐藤 やはり一次救急に医師会が協力するようなシステムが必要ですね。今後の方向性としては、医師を集約させ、例えば市立病院に隣接した場所に新たな施設をつくり、そこで小児一次医療を行えば、二次医療との連携も可能ではないでしょうか。現在の夜間急患診療所については1日2〜3人の患者さんしかおらず、機能しているとは言い難いですし、無駄があるように思えます。

草加市小児・救急医療問題懇話会委員

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 高山 幸一郎 (草加市保育園父母会連合会) | 福田 誠一 (草加市PTA連合会) |
| 城石 和彦 (社団法人 草加青年会議所) | 佐藤 達也 (社団法人 草加八潮医師会) |
| 熊谷 昇 (社団法人 草加八潮医師会) | 桂 一平 (草加歯科医師会) |
| 芳澤 正士 (草加薬剤師会) | 高元 俊彦 (草加市立病院) |
| 土屋 史郎 (草加市立病院) | 石田 幸治 (草加市) |
| 根本 政広 (草加市) | |



草加の小児夜間救急の充実に期待

草加市保育園父母会連合会 高山 幸一郎

小さい子どもをもつ親として一番心配なのはやはり「子どもの健康」です。とりわけ、かかりつけの診療所が終了してしまう夜間に起こる子どもの体調悪化にはとても不安を覚えるものです。

そんな時に頼りになるのが市立病院ですが、今回「草加市小児・救急医療問題懇話会」に委員として参加して、市立病院の先生方がフル回転

しながら私たちの子どもを診てくださっていることを知りました。

懇話会では、そうした先生方の負担軽減につながる小児夜間診療所の設置を目指す議論がなされました。比較的症状の軽い子どもを夜間診療所で、救急対応が必要な子どもを市立病院でそれぞれ診察していただく。

この二つの施設が同じ敷地内にあると連携しながら運営されれば、子どもをもつ親としてこんなに頼もしいことはありません。

草加市の小児夜間救急の充実のため、ぜひ実現してほしいと大いに期待しています。

懇話会委員の声



未来ある子ども達のために

(社)草加青年会議所 城石 和彦

今回の懇話会に参加して強く感じたことは、委員である市民、医師会、市職員が一日も早く草加市の医療体制を今以上に充実させたいと考え、会議に臨んでいたことです。

いろいろな意見が飛び交う中、参加者の一致した意見として「市立病院内構想」を市長に提出させて頂きました。この構想は現在、保健センター内で医師会が行っている夜

間の一次医療を市立病院内で医師会が行い、そして二次医療を市立病院が行うという、時間的ロスも少なく、安心できる状態で本来の役割を果たすというものです。

本年、私の所属する(社)草加青年会議所でも草加市の医療体制の充実をテーマに調査・研究し、獨協大学の学生達とともに多くの協力を得て、医療マナーについての自主映画やマンガの製作を行いました。関係者からも新たな夜間急患診療所の早期実現を望む声が出ています。

未来ある子ども達のためにも一日も早く実現したいと私は願っています。